

令和7年度 広島県病害虫発生予察情報 技術情報第6号

令和7年9月10日(水) 発表 広島県西部農業技術指導所

トマト、ミニトマト等のナス科作物 フェロモントラップへの誘殺数が急増しています～

8月中旬から下旬にかけて、トマトキバガのフェロモントラップへの誘殺数が急増しています。

更に複数の生産者から、トマト及びミニトマトの果実への食害が報告されています。夏秋トマトは収穫終了時期を迎えるに際し、適切な防除対策を実施しましょう。

発生概況について

- (1) 当所が設置しているフェロモントラップ調査において、3地点中2地点の誘殺数が急増しました。これは、前年同時期を大きく上回っている状況です。
- (2) 9月上旬時点で、トマト及びミニトマトの果実への被害が、複数の産地・生産者から報告されています。
- (3) これから収穫終了時期を迎えることや、他の農作業との兼ね合いにより、防除期間が長く開いてしまい、今後の発生拡大が懸念されます。実際に、収穫終了時期にほ場内で被害が多発した事例があり、注意が必要です。

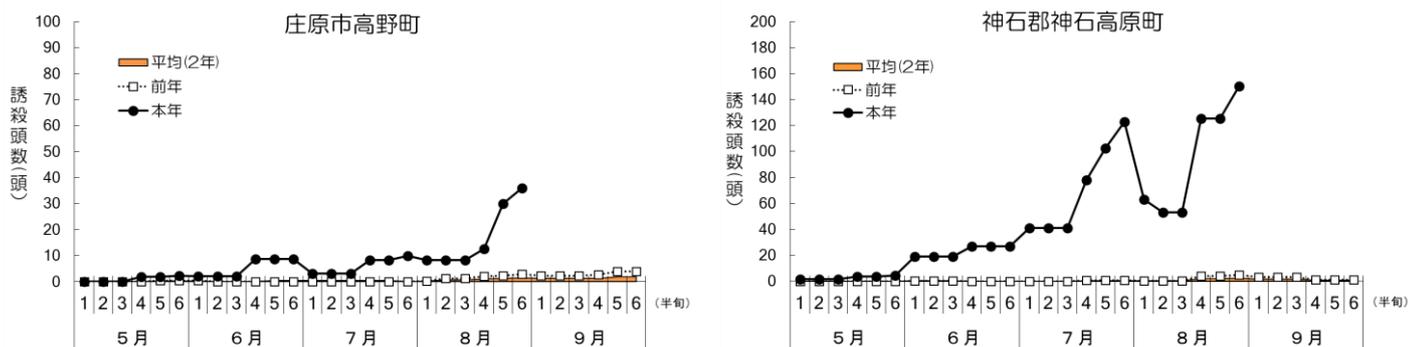


図1 県内に設置したトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺状況(8月末時点)

防除対策について

栽培期間中の対策

- (1) 海外では、薬剤に抵抗性を持つ個体群が発生したとの報告があります。これを防止するため、同じ系統の農薬を連続で使用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
※必ず最新の農薬登録情報を確認した上で、薬剤を選択してください。
- (2) 本虫をほ場内で見つけた場合は、速やかに捕殺してください。
- (3) 施設栽培では、ハウスの開口部や入口に防虫ネットを隙間なく張り、成虫の侵入を防ぎましょう。

栽培終了から冬時期の対策 ※栽培期間中にほ場内でトマトキバガが発生した場合

- (1) マルチや誘引紐などの資材は、幼虫や蛹が付着している可能性があるため、速やかに処分しましょう。
- (2) 植物残さは穴を掘って埋設するか、袋などに入れて密閉し、虫が死滅した後に処分しましょう。
- (3) キルパー処理を行い、植物体を枯らすことで、幼虫の生息環境をなくすことが可能となります。
- (4) 冬期はハウスの被覆を剥ぎ、寒気にさらしましょう。冬期に被覆を剥ぐことが難しい場合、可能な限りハウスサイドや妻面を開放してください。

<参考資料>

- 植物防疫所病害虫情報No.138 (2025年6月16日) 「トマトキバガの解説」, 植物防疫所
<https://www.maff.go.jp/pps/j/guidance/pestinfo/attach/attach/138/attach/pdf/138-tomatokiba.pdf> (参照 2025-09-09)
- 病害虫防除技術情報 R6-1 「夏秋トマト及びミニトマト栽培圃場におけるトマトキバガの防除対策～冬期・育苗期・定植時の対策～」, 岩手県病害虫防除所
https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/000/843/r6-1_bouyogijyutsu_tomatokibaga.pdf (参照 2025-09-09)



図2 ミニトマト果実への被害



図3 葉への食害痕



図4 トマトキバガの蛹



図5 葉上の幼虫と食害痕

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151
東広島市八本松町原 6869
TEL : 082-420-9662 (直通)

ひろしま病害虫情報
(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

